

女性起業家～都市部と農村のギャップを埋める必要性 ドウロット・マラ（バングラデシュ）

バングラデシュの女性は沈黙を破り始め、国のビジネスシーンを一変しました。既製服輸出のマイクロクレジットをはじめ、至る所にそれは見られます。女性は、生まれながらにして持つ社会に対する創造性、誠実さ、献身性を活かして起業家としての才能を証明しました。女性はバングラデシュのGDPの成長に貢献したと同時に、家庭と仕事の双方の責任をも果たしています。

女性のエンパワーメントについての固定的意識はまだ国内にはびこっています。農村部では特に、女性の識字率が都市部と比較して極めて低く、宗教に基づく誤った解釈、社会的な制約、男性優位の保守的な家庭といったものが女性のエンパワーメントをはばんでいますが、数多くの障害に囲まれながらも女性の労働力は経済の主流へ進出しています。

起業家精神が女性の中で育ち、栄えています。これまでどれだけ社会や政府から支援されてきたのでしょうか。未だに、女性は男性側から差別を受けています。また、利用できる設備、資金調達や市場へのアクセスにおいて、都市部女性と農村女性との間のギャップも極めて大きいのです。

女性起業家たちは、家庭も仕事も維持する能力を社会に対して証明しようと奮闘しています。バングラデシュでは女性の経済への貢献度は未だに計測されておらず、それどころか女性起業家の人数すら調査されたことがありません。

成長する労働力の未確認の潜在性を把握することはこれからの課題です。女性起業家はビジネスのごく限られた分野の中で動いています。手工芸、ブティック、養鶏、農業が女性起業家の9割が従事する分野です。開業時の資金調達が課題となっています。

都市部の教育のある女性についての状況は極めて良好で、彼女たちは家族や友人から強力な支援を受けています。ところが、農村女性にとって、状況は最悪です。

農村女性はマイクロクレジットを活用するようになってきていますが、多額の融資については困難に直面しています。たとえ融資返済の点で問題ないと女性起業家が証明しても、金融機関はその事業の持続性に疑念を抱いているのです。

女性起業家はバングラデシュではあまり特権を持っていません。民間も公的機関も女性起業家の数を把握するための包括的な調査を開始していません。政策立案者は、入手できるデータが不足しているために潜在的労働力の成長についてまともに注意を払っていないのです。

中小企業財団の行った二次的な調査では、2011年の約3500人の女性企業家が2013年には8500人にまで増加したといます。しかしながら、中小企業財団は産業省に属する国立機関であり、実態よりも多く見積もっている可能性があります。

中小企業財団の副所長ファルザナ・カーンは、バングラデシュの全女性人口の約1割が事業経営に携わっていると見ています。カーン氏は女性起業家のファシリテーション役を任じられましたが、女性起業家への奨励や保護策が不足しているため、その投資先の分野は限られていると指摘しています。

「ブティック経営に従事している女性起業家が最も多く、次いでファッションデザイン、ビューティパーラーの分野が多い。」とカーン氏は話しています。

バングラデシュ女性商工会議所（BWCCI）が2010年に公表した調査では、41.6%が製造業と貿易に従事しており、輸出業10.6%、卸売業6.2%、小売業13%、サービス業12.8%、

輸出入業 1.6%となっています。

女性起業の専門家は、多様な分野において起業の奨励と支援が必要だと強調しています。政策対話センター（CPD）の研究者ファミダ・カトゥン博士は、女性起業家が新しい分野に投資を拡大するには、建設的な助言が必要だと述べています。彼女はまた、「銀行や金融機関は、融資をする前に女性にガイドラインを提供するべきである。」とも述べています。

融資を行う側がその資金を女性起業家が最大限に活用できるようなパッケージを提供してはどうか、と彼女は提案しています。女性起業家の大半は、低利で受けた銀行の融資をどのようにして活用するかを決断を下すことを難しいと考えているといいます。

バングラデシュ銀行の指針が民間銀行へ示されたため、資金調達へのアクセスはこの5年間で改善しました。都市部でのこのような改善について多くの女性起業家が満足していると評価しています。

首都商工会議所（MCCI）会頭のロキア・A・ラーマンと、BWCCIの創設者のセリマ・アハメッドは、都市部の女性起業家への財政支援の改善について、一致した評価を表明しています。しかしながら両氏は農村女性に対しても同様の支援がなされるべきだと強調しています。

セリマ・アハメッド氏は、農村女性のマイクロクレジットへのアクセスは増えてきているが高額融資についてはまだ課題があると指摘しています。

女性起業家に対する中小企業パッケージを整備した民間銀行が増えています。しかし、地方の町では全く違った状況です。ある銀行の支店は女性起業家に対しての女性起業家が融資を適切に活用することができないのではないかと疑念を持ち、そのために中小企業融資に消極的です。

最優先課題は、女性の教育と能力向上を推進し、より高い報酬体系のフォーマルセクターへの参入を支援することであると、カトゥン博士は主張しています。一方で、女性起業家にとっての資金調達へのアクセス障害がないか調査する中で、女性起業家向けの中小企業融資の多くが男性に利用されていたことが明らかになりました。男性が低利融資を不当に利用していないか、銀行を監督、チェックすることも博士は提案しています。